

## 奥野田葡萄酒醸造株式会社様の訪問記

いばらき経営研究所代表・中小企業診断士

荻木 正史（いばらき まさふみ）

2月3日に甲州市の奥野田葡萄酒醸造株式会社（奥野田ワイナリー）様を訪問しました。

当日は、代表取締役の中村雅量様にご案内いただきました。中村様は大学の醸造科を卒業され、県内のワイナリーに入社されたのち、当時の甲府盆地では少なかった欧州系の葡萄によるワイン造りに取り組もうと1989年に独立したそうです。それ以来、独自の考えで葡萄栽培とワイン醸造を続けられています。

栽培方法は、甲府盆地で主流の棚仕立てではなく、欧州で用いられている垣根仕立てという、葡萄の木を生け垣のように整然と並べた方法を用いています。これにより、葡萄の収穫量は減りますが、糖度を高めることができワイン醸造に適した葡萄ができるということです。葡萄は自社畑と契約栽培畑の両方から入手しており、自社畑では欧州種のメルロ、カベルネ・ソーヴィニオン、シャルドネなどを主に栽培しています。

今年で独立して34年で、葡萄品種やワイン造りで差別化を進めるとともに、農林水産省から六次産業化・地産地消法に基づく「総合化事業計画」の事業者として認定されるなど、地域資源を活用して付加価値を生み出す事業の創出にも尽力されています。また、昨今のコロナ禍においては、家飲みをターゲットに販路を開拓されるなど、マーケティング面でも独自の取り組みを行っています。

2022年には事業再構築補助金を活用し、工場をリノベーションしてSHOP&SALONを設置しました。白塗りの壁に設けた大きな窓から葡萄畑が見渡せ、チャペルのような雰囲気

のある空間で、試飲や販売だけでなくワイン会などのイベントにも適した場所となっています。

地場産業との連携にも取り組んでおり、丹波山村の林業と連携し、丹波山村産のミズナラの木で作った樽で熟成したワインを醸造しました。このワインは村のふるさと納税の返礼品としてリリースしましたが、受付後すぐに締め切りとなるなどの人気を博したということでした。

また、会員制のクラブである「奥野田ヴィンヤードクラブ」を運営しています。ワイン好きの一般の方がメンバーで、芽かき、剪定などの農作業会や秋の収穫会を開催し交流を図るものです。農作業の後にはワイナリーのテラスでのワインランチなども開催し、出来上がったワインを購入するだけでなく葡萄栽培から楽しめるといふ、ワイン愛好家にとっても魅力ある集まりとなっています。当初6人から始まったのですが、口コミで会員が増え、今では200人ほどになっているとのこと。メンバーは女性が7割を占め、休憩場所を設置したり、乾杯には紙コップではなくワイングラスを使ったりするなど、女性が参加しやすい雰囲気づくりを工夫されています。

訪問では、葡萄品種や栽培方法を追求することで独自のテイストを生み出すワインづくりと、地場産業と連携した地域との関係づくり、愛好家の方との絆を大切にしたいファンづくりによる経営に触れさせていただきました。当日はワインの試飲もさせていただきましたが、どれも作り手の思いの詰まった個性のあ

るワインでした。奥野田葡萄酒醸造株式会社  
様のご厚意によりこのような場を持ってました  
こと、感謝申し上げます。

荻木 正史 (いばらき まさふみ)

いばらき経営研究所代表

2022 年中小企業診断士登録、一般社団法人山梨県中小企業診断士協会会員。

精密機器メーカーにて電子写真式 MFP と消耗品の生産、生産技術、生産自動化、海外工場建設、  
事業企画、生産関係会社経営などに従事。

専門分野は、現場力強化、DX・ICT・自動化による「ものづくり革新」、原価低減、事業計画策  
定、補助金申請支援など。全国通訳案内士（英語）、J.S.A.認定ワインエキスパート。